

暫定球はナイスショット？

♪もう一度やり直せたなら 馬鹿だねそんな話はもうやめよう♪—。ロックシンガー浜田省吾さんのラブバラード「ラストダンス」のワンフレーズ▼ラウンド中に、この歌詞とメロディーが頭の中を流れることがある。ミスショットは当たり前のこととして受け入れるが、やはり OB を叩いた時のショックは大きく、先の歌詞のように「もう一度やり直せたなら」となってしまう▼リズムが早かった、スタンスが OB 方向だった、振り遅れた、そもそも打ち方が悪かったなど原因はいろいろ挙げられるが、後の祭りである。気持ちを入れ替えて暫定球を打つしかない▼ボールが OB ゾーンに向かったり、ロストボールになるかもしれなかったりしたときには暫定球を打つ。なぜ暫定球を打つのか。その方が時間短縮につながるからである。打ち直しの場合には打った地点まで戻らなくてはならず、その時間を省くためである。先人の知恵であろう▼暫定球を打つときに、少しばかり注意しなくてはならないポイントがある。必ず「暫定球を打ちます。〇〇社の〇番です」と同伴者に聞こえるように宣言しなくてはならない。「やばいっ。念のためもう 1 球打っておきます」だと、暫定球とは認められない。2 球目を打った時点で 1 球目はロストボール扱いとなる。着弾地点に行って、1 球目がセーフだったとしても、暫定球を打ち続けるしかない▼自分、同伴者を含めて一般的なアベレージゴルファーの場合、暫定球はなかなか避けて通れない。だが、その多くはなぜかナイスショットなのである。「なんで 1 球目にこれを打たなかったのか」と地団駄を踏んで悔しがる光景がよく見られる。「きっと余計な力が抜けたから」「人間には学習能力があるから」などいろいろ分析するプレイヤーがいるが、「暫定球＝ナイスショット」説はなぞに包まれたままである。

(2025・05・11)